



なんぶ

議会だより

第58号

平成31年1月青年議会
発行/平成31年2月

第1回青年議会

若者、町の未来を問う！



●ごあいさつ2

●一般質問ダイジェスト3

●振り返ってみて10

●あとがき12

第1回青年議会開催について

地域経営を考える「おせ」を見た



南部町長
陶山 清孝

瑞々しい感性に溢れた青年たちの瞳が議場に溢れていました。議場で青年たちと向かい合った最初の印象です。そして、なにより私自身が緊張していました。模擬議会とは言っても参政権をもつ青年たちに対しての答弁には政治責任があり、いわゆる耳触りの良い答弁に終始する訳に行かないからです。そんな緊張の中

で迎えた青年議会でしたが、議場の青年たちは地域経営に責任を持つ「おせ」として堂々とした質疑を展開してくれました。一人あたりの質疑時間の短さや、議場の掟に縛られて、若者らしい柔軟な発想を言いにくい、聞き出しにくいという課題もありましたが、若者の視点で考える提案には多くのヒントがあったと感じています。

わたしにとってこの青年議会は、地域経営に参加し責任を持とうとする若者に「おせ」を見た充実した時間となりました。

若い人の意見を町政に反映する



南部町議会議長
秦 伊知郎

若者の政治への関心を高め、これからの町を担っていく人材の育成につなげるべく企画した青年議会。新聞、中海テレビ、なんぶSANチャンネルの報道により、多くの人たちの関心の中、実施することができました。

議員となった、青年、高校生の感想の中に「議会を通じて自分と町のつながりを意識できた」「最初は、町をよくするため、町のためだと思っていた。学習等をするうち何よりも自分のためになっていた」との言葉がありました。当初の目的を少しは達成できたかなと思っています。



	議員名	総合時間	質問事項
1	三鴨 昂将	10	1 南部町と他の地方自治体との提携
2	廣戸 桃子	10	1 避難所での障害者に対する支援
3	田部健太郎	10	1 安全な通学
4	都田 月菜	10	1 歩道のゴミの削減
5	田中 千優	10	1 若者の意見を町に反映
6	長原 海優	10	1 グローバル事業
7	渡辺 友貴	10	1 LINE（ライン）スタンプ
8	羽賀 柊人	10	1 不登校児童・生徒への支援 2 教育支援センターさくらんぼの施設
9	瀧山 敬義	10	1 サイクリングイベントの開催
10	金谷 彩加	10	1 少子化対策
11	頼田 珠世	10	1 保険・医療
13	渡會 昂佑	10	1 若者の就業と起業
14	前山 寛文	10	1 まちづくりへの仕掛け

※編集の都合により全文掲載できませんので、内容を一部要約しています。



町政に問う！ 青年議員の想いを

【質問の通告】

一般質問は、議題と関係なく行財政全般にわたる議員主導による政策論議で、通告制で行っている。

【一般質問の時間】

青年議会において行われ、南部町の青年議会では、総合時間 10 分間で行った。青年議員は想いを町政に問いました。

Q

今後の三つの自治体との関係は

A

お互いを補完出来る関係を目指したい 町長

南部町と他の自治体との連携 三鴨昂将議員

三鴨 ①南部町は高知県佐川町、広島県尾道市、鳥取県岩美町と相互連携協定を締結している。その経緯について伺う。

②今後の三つの自治体との関係について伺う。

③他の自治体との文化交流は考えていないのか。

町長 ①佐川町とは平成8年12月から交流が始まりスポーツ少年団の総合交流、法勝寺歌舞伎や一式飾りの文化交流、J A による栽培手法を学ぶ交流研修などを通じて、平成18年4月21日に防災協定を締結。尾道市とは平成24年5月29日に締結し、昨年の豪雨災害では給水活動で職員を20名派遣した。岩美町との災害協定は平成24年4月13日に締結した。

②今後の関係は少子高齢化、防災、福祉、公共交通、産業振興など、4市町が共通に抱える政策課題を念頭に置いた交流が必要だと考える。更に、行政を越えて、市民レベル、町民レベル



での交流が深まり、お互いを補完できる関係を目指したい。

③残念ながら南部町では文化交流、友好市、友好町といった友好協定を結んだ町はない。しかし、防災協定を結んだ市町はある。これらの自治体とは更なる関係を深めて行きたいと考える。



7月豪雨で被災した尾道市への水道支援隊

避難所での障がい者支援

廣戸桃子 議員

Q

障がい者への支援体制はどのように

A

個々の具体的状況を把握し対応している 町長

廣戸

鳥取県では、ろう者とう者以外の者が互いを理解し共生する社会を築くため、手話言語条例を制定している。

この条例に基づき全国手話パフォーマンス甲子園が開催され、その中で障がいの方は避難する前も避難した後も、たくさんの方の不安や苦労があることに気づかされた。

そこで、我が町の避難所での障がい者の方への支援内容、そしてゆうらくや西伯病院が障がい者対応の避難所になっていることの住民周知の状況について伺う。

また、避難時に町民同士が協力し合えるよう、避難所での各障がいに対する支援の仕方をまとめることを提案したい。

町長

障がい者の方が避難所に避難された場合、具体的な状況を把握し、医療・福祉関係者、手話通訳者、介助者などの支援を受け避難所を運営していく。介護が必要な場合は、可能な限りゆうらくや西伯病院に



移送する。介護が必要でない場合は職員の目が届くところについていただくよう配慮している。

視覚や聴覚に障がいをお持ちの方には声掛けや点字、筆談などによりコミュニケーションをとり支援するとともに、鳥取県西部聴覚障害者協会などからの派遣も計画している。

ゆうらくや西伯病院は介護認定を受けた方や医療が必要な方の避難施設となっている。避難所として指定はしているが、受け入れ人数に限りがあるため、専門機関以外の一般町民への周知はしていない。

提案については、避難所内でのボランティア介助者が支援しやすいよう諸条件を整備していきたい。

安全で安心な通学路

田部健太郎 議員

Q

安全で安心な通学路の構築を

A

連絡会等において検討課題とする 教育長

田部

部活等が終わって、下校する際、土手や通学路を帰るのに、とても暗く危険だと感じる。各地区の生徒数も少なくなり、やむなく、一人で帰宅する者もいる。最近自転車での事故も多発している中、暗い通学路で被害者や加害者になってはならないと思う。しかし、土手自体が住民の生命財産を守るためのものであることから国が許可しない、土手を広げるには膨大な予算と期間が掛かることも分かった。

そこで、提案だが、研修で学んだ一つに、自分のことは自分で守る。という視点で照明設備に頼らず自らが明るく安全な通学路を確保していくことだ。生徒がライトをきちんとつけ、その上により強く広範囲に照らすことができるライトの配布や購入に係る費用の補助をしてはどうか提案する。

生徒の安全と安心のために。

まず、法勝寺川土手の堤防としての機能や、



その堤防に照明設備を設置することの難しさもよく調べられ、容易ではないことを理解されていることに敬意を表する。私も通学路の安全性向上を求める声を色々な場面で伺っており解決しなければならぬ課題と強く認識している。このような中、議員から自転車へのライト取付の提案をいただいた。提案のきっかけとなった研修で学ばれた自分の命は自分で守る、照明設備にばかり頼るのではなく、自らが明るく安全な通学路を確保する必要があるとの御意見に深く感銘を受けた。

今後、通学路の安全性向上の一つとして、各機関が集う連絡会において提案の趣旨や有効性についてご意見をいただきながら検討を進めていきたいと思う。

道路や歩道のゴミ削減

都田月菜 議員

Q

コンビニと連携してゴミを減らせないか

A

事業系廃棄物に町の補助はできない

町長

都田 南部町ではコンビニなどが増えて周辺の道路や歩道にゴミが増えている。

①地域のコンビニと連携し、拾ったゴミをコンビニのゴミ箱へ捨てられるようにしてはどうか。

②拾ったゴミをコンビニに持ち込むことでポイントがたまるシステムでそのゴミ処理費用を町が一部負担すればお互いにメリットがあるのではないか。

③環境教育と結びつけた絵やメッセージがコンビニ周辺に掲示できればゴミ箱に捨てる人が増えると思うがどうか。

町長

ゴミの不法投棄、ポイ捨てなどの行為は法律で禁止されている犯罪行為であり、町では毎年6月第一日曜日に町内一斉清掃として取り組みを各集落にお願いしている。地域振興協議会による不法投棄のパトロールなども行っていた。

①コンビニのゴミ箱はコンビニから出るゴミがポイ捨てになら



ないよう設置されているが、そのゴミは事業系廃棄物であり処理責任は事業者にある。その事業系のゴミに町の補助はできないと考えている。

②ポイ捨てのゴミを持ち込み処理することはコンビニから出たゴミなのか一般ゴミなのか区別が難しく手数や費用面でコンビニ事業者に多くの負担をかけることになり困難だろうと考える。

③現在も振興協議会や集落などで不法投棄が多い場所に独自に鳥居の形をしたものを置いて抑止効果が出ているので、環境教育に結びついた絵などを置き、心に訴えかける効果は与えることができるのではないかと考える。今後も広報等周知に取り組む。

若者の意見を町に反映

田中千優 議員

Q

若者と会談する機会を

A

そうした場を必ずつくる

町長

田中 私は、高校生サークルや南部太鼓に参加することで、南部町の見方やかわり方が変わってきた。南部町が身近なものになったと感じている。

町長は年に何回くらい小学校や中学校に行かれるのか。また、給食と一緒に食べたことがあるのか伺う。

提案になるが、学校給食の食材の現状、小・中学校の現状、また小・中学生の町に対する愛着を高めるためにも、一緒に給食を食べる機会があっても良いと思うがどうか。

さらに、町長と高校生で話をするような会を企画したら来てもらえるか伺う。

町長

体育祭や運動会、文化祭や学習発表会など、できるだけ出かけるようにしている。また、「学校だより」などの広報で学校の様子を知るようにしている。給食について、町長就任以来、小・中学校の皆さんと給食を一緒にしたことはなかった。新年度にはぜひ小・中



学校それぞれで実現したいと思う。

高校生と語り合うことについては大歓迎だ。高校生や青年団の皆さんと、そうした場を必ずもてるよう教育委員会にもお願いしたい。



グローバル事業

長原海優 議員

Q

韓国との海外交流を毎年開催予定は

A

韓国への派遣は毎年実施の方向で継続 教育長

長原

近年グローバル化の言葉を耳にする機会が増えたが町内の国際的行事は少なく感じる。

①韓国との交流が2年に一度だと在学中に交流が一度しかできない高校生も出てくる。補助金を減らし自己負担を増やし一年に一回海外交流事業を開催してはどうか。

②金銭的理由で留学できない人たちのために町内開催で参加費を減額または無料にすることは可能か。

③今後、町内で海外の方と触れ合うような行事を設ける予定はないか伺う。

教育長

①平成28年度よりふるさと納税を活用し、高校生サークルの韓国派遣事業を始めている。これからの時代は国際感覚を養い、日本語以外の言語習得は極めて重要なスキルのひとつである。平成29年度は朝鮮半島情勢が極めて不安定だったため急遽、東北に変更したもので韓国への派遣は毎年実

施の方向で継続する予定である。

町長

②町では国際交流協会が主体となり毎年韓国ハンリム大学の学生受け入れを行い、ホームステイをし、大山登山や皆生トライアスロンのボランティアと一緒に交流をしている。

③町が生涯活躍のまちづくりとともに進める青年海外協力協会のネットワークを生かし様々な国の人や文化と交流できる事業を行っている。例えば、インド、カンボジアからの研修生の受け入れ、モンゴルの青年の町内滞在など、体験談交流会、料理教室等を実施しており今後も協力や支援を行って行く。国際交流イベントや機会については高校生サークル、新☆青年団の皆さんに適宜ご案内していきたい。



Q

南部町オリジナルライセンススタンプの活用

A

若い方々とともに作りみたい 町長

渡辺

南部町では、ツイッターやフェイスブックもされているが、南部町の情報を見たり共有したりする若者はあまりいないように思う。

高校生や若者が活用しているのはやはりラインだ。南部町オリジナル・ライセンススタンプを作ってみてはどうか。名所、特産品、生き物などバリエーション豊富なスタンプができると思う。さらに、コストがほとんどかからない上、うまくやれば町の収入にもなる。このラインを活用して南部町をPRしていけばと思うがどうか伺う。

また、スタンプのデザインを募集するというのはどうか伺う。

町長

町では現在、ラインを使った取り組みは行っていない。情報発信を行う上では、どういう目的で誰に対して発信するのかを明確にすることが重要だ。

若い皆さんへの発信にはラインを活用することが最も有効な

LINE(ライン)スタンプ

渡辺友貴 議員

手段の一つと考えている。

近隣では、米子市や日南町がマスコミキャラクターのラインスタンプを作って販売している。

渡辺議員の言われる南部町の名所である赤猪岩神社やブッポウソウのスタンプといったものも面白い。デザインを募集するという提案も良いアイデアだ。

ぜひ、皆さんのような若い方々にデザインやアイデアを提案してもらい、関わっていただくことで若い皆さんにも南部町に関心を持ってもらえる。ぜひ実現したい。



不登校児童・生徒への支援

羽賀柾人 議員

Q 居場所の選択肢は

A 多様な居場所、学び方が保証できる教育環境が必要 町長

羽賀

私は小学6年生で不登校になり、教育支援センター「さくらんぼ」に通い、中学2年で米子養護学校へ転校した。私の経験から不登校支援について伺う。

①不登校が出た場合の教育・学校関係者の対応と連携について。

②該当生徒の要望に対する対応マニュアルはあるのか。

居場所について、「さくらんぼ」や養護学校などへの選択肢を、本人にどのように勧めるのか伺う。

教育長

まず、議員自身の経験や思いを披歴し、不登校対策に警鐘を鳴らされた質問に心から敬意を表します。

①学校には不登校対策に対応する委員会がある。状況で異なるが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部関係者も参加し、協議している。

②そこに至った状況が各児童によって異なるので、マニュアル



羽賀

私の経験や体験からの質問でしたが、昨年から加入した、「With You 翼」での活動は、長年苦しんだ様々な疾患の緩和、そして社会復帰への場を与えてくれた。

これからも、不登校児童・生徒の居場所づくりへの理解と環境整備などの充実に協力をお願いしたい。

サイクリングイベントの開催

瀧山敬義 議員

Q イベントや祭りでの課題解決を

A 組織体制の構築を検討したい 町長

瀧山

経済の活性化や移住定住を進める一つの手段として、各種イベントが行われている。

しかし、どれも年に1回の単発的なイベントだ。できる限り若い方に年に何度か南部町に来てもらえる仕掛けが必要だ。

そこで、若者に人気が高まっているサイクリングイベントの開催を提案したい。年に複数回のイベントを核としてロードバイクのメンテナンスショップやブランド店の誘致、専用宿泊施設の開設や飲食店や公共施設に駐輪スペースを設置するなど、全国700万人のサイクリング愛好家が年間を通じて訪れる仕掛け作りが必要と思うがいかがか。

町長

現在開催されているイベントは、イメージアップ効果は期待できるが、宿泊を伴わない滞在時間が短いイベントでは経済波及効果面では課題が多いと考えている。

町では、本年度から農泊推進協議会を立ち上げ、ランナース



ビレッジ構想プロジェクトに取り組んでいる。ランニング愛好家をターゲットとし、農村の景色や体験を提供する着地型観光の手法で、地域特性を生かしたランニングコースと食事や宿泊をセットにしたスポーツツーリズムを目的としている。

この計画の中でランニングだけではなく、サイクリングもスポーツアクティビティの柱として捉え、南部町の独自色を生かした計画策定を検討できると考えている。

施設整備については、組織体制の整備があつてのものと考えており、一つ一つ成果を積み重ねて施設整備につなげていきたい。

少子化対策

金谷彩加 議員

Q

未婚・晩婚化の対策とは

A

三本柱で支援する

町長

金谷

私も周りの友人も、結婚や出産に対してまだほとんど関心がない。こういった20代前後の若者が多いこと自体が課題であると思う。

そこで、未婚・晩婚化に対してどのような対策をとっておられるのか伺う。

また、家から近くてかかりつけ医に相談でき、出産までできる産婦人科が町内にあればよいと思うが、西伯病院も含め産婦人科の設立に対して町としてはどのように考えているのか伺う。

町長

南部町では平成26年度から少子化対策プロジェクトとして少子化に本腰を入れていて、結婚支援、出産子育て支援、若者世代の暮らし支援の三本柱による取り組みを行っている。

結婚支援では「NPO法人むすび」に委託し、結婚支援事業を行なっている。

出産・子育て支援では、兄弟姉妹1人につき5万円を加算し

て支給する誕生祝い金など行なっている。

若者世代の暮らし支援では、新婚・子育て世代の賃貸住宅の家賃補助や、三世代家族の同居等の住宅の新築、改修、増改築などに係る費用について補助をする三世代同居支援事業がある。

産婦人科設立については、現在の日本では医療の方向は1つの病院に多くの診療科をつくる総合病院型から、各病院や診療所が持つ特徴を生かした機能連携型への移行が求められている。この点からも西伯病院での産婦人科の復活は非常に難しいと考える。



保険・医療

頼田珠世 議員

Q

就業までの医療費・予防接種の助成を

A

予防接種助成制度化に努力する

町長

頼田

18歳までは医療費の助成制度はあるが、高校卒業後進学をした学生は、自分で働いてお金を稼ぐことが出来ないため、高い医療費を払わなくてはならず、経済的に苦しい部分がある。

そこで、全額ではなくても町として働くまでの学生に対する医療費の助成をしていただきたい。

また、現在の日本の死因の第3位は肺炎であり、インフルエンザなどの予防接種を、若者がきちんと受けることは必要だと考える。若者の健康が南部町の健康増進にもつながると思うが、予防接種の助成制度だけでも出来ないか伺う。

町長 現在、子供の医療費助成については18歳の誕生日に達する以後最初の3月31日までとなっている。

現行の制度において18歳から就業するまでの学生が対象の医療費助成の制度が出来ないかとのことだが、高校卒業後就労し

ている方との公平性や、町内在住者か町外在住者も含めるかなどを考えた場合、課題がかなり多いと考える。

したがって、議員提案の高校卒業後進学された学生に限り限定した制度をつくる助成制度については、実施は現時点では困難である。

また、予防接種の問題については、議員のおっしゃる通りだと思う。その拡散の予防のためには何らかの手立ては重要であると思う。現状より少しでも良い環境になるような努力をしたい。



一般質問

若者の就業と起業

渡曾昂佑 議員

Q 町長の所見を問う

A 人と人とのつながりが若者の支援に

町長

渡曾

今日、日本のあらゆる企業、産業で後継者、新規就業者が少ない現状があるが、一方で若者の間では金銭的豊かさを求めるより自分らしく生きたい自己実現欲求が強くなっている。人材不足を感じる企業と地元の仕事がないという若者の間に溝が生じている。また、新卒社員の入社三年以内の離職率は非常に高く、社会問題として扱われており、県内でも深刻である。このような現状を踏まえ次の質問をする。

①県外に流出した若者に対し、町内に働き口があることを伝える手段とアプローチの方法は。

②就業、起業後のケア、支援は。

③時代の変化による価値観のギャップをどのように捉えているか。

④流出前の関係構築、流出後のコミュニケーションはどのようになされているのか。

⑤にこれからの若者への支援をどのような形でしていこうとしているのか。

町長

①どのようなアプローチが可能で効果的なのか個人情報も含め非常に苦慮している状況であり、意見を聞かせてほしい。

②起業促進奨励金を活用いただいているが必要なケアを求める意見があればお聞きしたい。

③世代間のギャップは大きいものがあり情報ツールだけでも大きく違う、議員のような世代から意見と知恵をいただきたい。

④流出前の関係構築はまず、家庭、そしてサークル活動、地域とのつながりを作り上げることと思う。

⑤若者への支援だが町とのつながりを持ち続けることだと思う、つながっていれば支援や必要な情報提供ができると思う。



まちづくりへの仕掛け

前山寛文 議員

Q 今までまちづくりの仕掛けはあったのか

A 地域振興協議会などの取り組みがあった

町長

前山

①南部町で、今まで行ったまちづくりに関する様々な取り組みの中に、継続的に住民が垣根を越えてまちづくりに係る仕掛けづくりがあったのか。今後、そのような予定はあるか。又、その様な取り組みの必要性について。

②アメリカのオレゴン州ポートランドでの取り組みネイバーフッド・アソシエーションや鎌倉のカマコンを参考に、青年議会のメンバー、「With You 翼」、新☆青年団「へんとつくり」、まちづくりにやる気のある大人で組織を作り、継続的に住民がまちづくりに関して話し合う機会を月1回開催することを提案する。

町長 ①南部町では平成16年の合併を機に地域振興協議会の制度を導入し、7つの地域振興協議会の単位でさまざまなまちづくりの取り組みを行ってきた。平成27年にはなんぶ創生100人委員会を設置し、組織の垣根を越えて南部町のまちづ

くりについての議論を行い、なんぶ創生総合戦略の策定に至った。また、昨年から各区分と集落の課題や取り組みについて意見交換をする地域円卓会議を開催し、町民の多様な意見がまちづくりに反映出来るよう取り組んでいる。

②行政主導でなく住民が主体的に考え話し合い、行動に繋げる取り組みだと認識している。提案のように青年議会のメンバーや地域のみなさんが主体的な話し合いの場を行政主導でない形で行うことは非常に意義があると思う。

今回、青年議会に参加された方々の意見や行動が未来の南部町を作っていく。議員の今後の活動に期待して行く。



「青年議会」学習会の4か月間を振り返ってみました。

第1回合同学習会 10月13日

高校生サークル「With You 翼」と新☆青年団「へんtoづくり」から14人の青年議員と5人のサポーターが集まり、議会の仕組みや行政の仕事について学習会を開催しました。最後には青年議員からの決意表明と議員の証しとして、青年議員に町章を贈呈しました。



第2回合同学習会 11月18日

青年議員の一般質問の項目内容と質問に必要な資料、調査研究方法について協議し、質問通告書の書き方を議員、青年議員が4班に分かれて学習しました。

その後本会議場で、質問手順について実地学習をしました。



第3回合同学習会 各自宅学習

12月定例議会での議員の一般質問のようすを“なんぶSANチャンネル”で視聴することで、本番のイメージトレーニングを各青年議員で確認してもらいました。

12月議会では、青年議会の手本となるため議員のほとんどが一般質問を行うほど力が入りました。



第4回合同学習会 1月16日

一般質問の主旨及び背景、質問要旨が完成したので、当日の本会議同様の流れを青年議員全員が本番さながらの学習をしました。



第5回合同学習会と午後、本会議(一般質問)の開会

いよいよ、本番当日です。午前中に最後の打ち合わせとリハーサルをおこない、昼食をゆっくり食べてから本番に臨んだ青年議員。傍聴に町民も多く来ていただき、議員も傍聴受付を手伝いながら、本番に備えました。



堂々とした質問



真剣な陶山町長の答弁

《陰の力の紹介》



教育委員会の大下先生は「青年議員」の陰ひなたとなり、お世話になった。



青年議員・サポーターと大下先生、議員、議会事務局長との記念写真



第1回の学習会から、青年議員を見守ってきた、サポーターの皆さん。

傍聴された町民からの一言

南部町青年議会を傍聴して

秦 伯富

鳥取県内でも初めてである「青年議会」が南部町で開催され、わたしも傍聴しました。

高校生や新☆青年団の10、20代の若い人達が行政執行部に対し、「安心して通える通学路」、「不登校児童へのケア・支援」、「避難所での障がい者への支援」、又「安心して子供が産め、安心して子育てができる病院機能の充実」等々、自分たちを取り巻く課題について、質問し提案していました。

この青年議員たちはこの議場で発表するにあたって、大

人の人に相談したり指導を受けたりしたと思います。また、自分なりに資料を調べたり、勉強もしてきたと思いますが、行政執行部の方々の前に又町民の方たちが傍聴する中で堂々と発表し提案できることは素晴らしいことだと思います。

このようなすばらしい若い人たちを見守り育てていくことが我々大人の仕事だろうと思います。

今後このような若い人達が次々と誕生してくれることを望みたいと思います。



青年議会議長を経験して

田部 健太郎 議長

僕は第1回の学習会の時に議長に選ばれました。副議長は青年団の先輩が引き受けてくださいましたので安心感はありませんでしたが、具体的な議長の役割もあまりわかっていなかったのも多少の不安もありました。

何回か事前の学習会でリハーサルをさせてもらい、議長のシナリオも用意していただいたので当日は落ち着いて議長席に座ることができました。高校生サークルの活動で、人前で話をする体験はたくさんさせていただいているので思ったよりも緊張はしませんでした。本会議が始まるまで正直、議長の役割はシナリオ通りに台本を読み上げる進行役だと思っていました。しかし、実際は再質問やそれに対する答弁など、時計を見ながら臨機応変に発言者を指名していくことが求められました。スムーズな進行はもちろんですが、より議論が深まるために議会全体をコントロールするという大切な役割があることを知ることができました。今回の青年議会では、横に座っていただいた議会事務局局長さんのサポートがあり、なんとか最後まで議長の職を務めることができました。

青年議員として議場に入ること自体、特別なことでしたが、その中で誰もが座ることのできない議長席に座らせていただけたことは本当に貴重な体験でした。慣れない議長役であることを理解し、ご協力いただいた町長さんをはじめ執行部の皆さん、支えていただいた町議会議員の皆さん、何よりも心の支えであったサポートメンバーも含め青年議員の皆さんに感謝したいと思います。



青年議員と青年サポーターと議員

あとがき

選挙権年齢が18才に引き下げられました。全国で青年の政治離れが危惧されている昨今の現状を考え、南部町議会でも今回の「青年議会」を計画しました。

町の議員構成をみると、平均年齢が60歳を超えている現状でもあり、若者が議会への関心も持つてほしいという狙いもありました。

何回かの学習会で認識を新たにすることは、青年議員皆さんが想像以上に真剣に町のことを考え、疑問点や提案をしつかりとした口調で主張したことでした。

南部町の将来に後光がさしていると感じた、初めての「青年議会」でした。

議会改革調査特別委員会
委員長 板井 隆

広報常任委員会

委員長 荊尾 芳之
副委員長 景山 浩
委員 井田 章雄
委員 板井 隆
委員 白川 立真
委員 長束 博信
委員 滝山 克己
委員 加藤 学